

第5回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：平成30年2月16日（金）午前9時30分～
- 2 場所：おだわら市民交流センターUMECO 会議室7
- 3 出席者：前田委員長、有賀副委員長、原田委員、益田委員、瀬戸委員、戸田委員、山田委員、大森委員、松野委員、杉崎委員

関係者：UMECO指定管理者 松本センター長、椎野副センター長（議題（1）①のみ出席）

事務局：諸星部長、府川課長、村田副課長、岡崎主査

4 資料：

- ・次第
- ・資料1-1 おだわら市民交流センターUMECO平成30年度実施予定事業
- ・資料1-2 平成30年度UMECO事業一覧と実施時期
- ・資料2 運営評価のための検討資料
- ・資料3 平成31年度実施分小田原市市民提案型協働事業応募の手引き

5 会議内容

■ 開会

委員長：ただいまから、第5回小田原市市民活動推進委員会を開会する。

本委員会の会議は原則公開となっているが、議題（3）市民活動応援補助金第1次審査については、市民活動応援補助金の書類審査を実施するにあたり、市民の間に不当な影響が生じないようにし、かつ特定の者に不当な利益又は不利益を与えないようにするため、小田原市情報公開条例第24条第3項に基づき「非公開」とする。

■ 議題（1）諮問事項①平成30年度事業計画について

委員長：それでは、議題（1）①平成30年度事業計画について、に入る。本委員会は、議事に関係のある方に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。本議題に関し、おだわら市民交流センターの指定管理者にお越しいただいているので、ご説明をお願いしたい。（指定管理者 資料1-1、1-2に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：廃止予定の事業企画・広報講座について、どのような内容で、またどのように周知していたのか伺いたい。

指定管理者：周知方法としては、UMECOの広報媒体を全て使っている。今回は私も取材で参加したが、大学でメディアを専門としている講師を招き、写真の撮り方や見せ方等をご指導いただいた。受講者が4名のみであったこともあり、今後は広報の技術を必要とする方には、相談業務の中で直接相對してのやりとりで対応すべく、廃止することとした。

委員：社会福祉協議会においても、ボランティアグループや高齢の方等のチラシ作り等をお手伝いすることはあるが、やはりチラシ作り等にノウハウのある方をお願いすべきと考えている。見る側がどう捉えるか、という視点での専門的な指導が必要であり、また団体も良いチラシ等を作りたいと考えているはずなので、講座を廃止するよりも、周知方法を工夫した上で継続すべきと考える。

指定管理者：広報は非常に重要な分野であり、団体もそのように認識していると思う。これまでもUMECOで講座を実施してきたが、受講者数が少ない現状から、いったん廃止とさせていただき、過去には私からのアドバイスで上達したケースもあるので、相談業務を拡充することでカバーしていきたいと考えている。

委員長：仮に、ある事業のアンケートをとったところ、非常に満足度が高かったが、参加者は目標100人のところ40人であった、という事例を考えてみたい。もし、広報を工夫し、参加者が100人来ていたら、非常に素晴らしい事業になったはずである。

廃止すると決定したのであれば尊重したいとは思いますが、他のNPOマネジメント講座、市民活動入門講座の中に事業企画・広報講座を組み込むことも考えられる。また、相談業務を周知する中で、広報に係る相談にも対応する旨をPRしても良い。広報の重要性を常に

認識した上で、事業を展開していただきたい。

指定管理者：承知した。市民活動入門講座の中で行うなど、対応したい。

委員長：広報に関連し、先日開催した新春交流会の実施報告がホームページに掲載されていないのは残念である。また、ホームページの構成について、各事業の報告がどこに載っているのかわかりづらい印象も受けたので、より見やすくなるよう工夫していただきたい。

指定管理者：新春交流会の報告については、現時点で未掲載であるので、早急に対応したい。また、見やすくなるような工夫も行ってまいりたい。

委員：26の事業を予定されているということだが、事業名は前年と同じか。

指定管理者：「統合」や「拡大」としているものについては、変更等行っている。

委員：地域活動団体ネットワーク形成事業について、どのような点を地域の課題と捉え、どのように解決を図っていくのか。具体的に想定しているところがあれば教えていただきたい。

指定管理者：ごみの処理の仕方も大きな括りでは環境問題となると思うが、身近な問題を中心に、各自治会において様々な課題を抱えている。生ごみを使った野菜作りを市民活動団体から提案するなど、自治会から相談された課題に応じた対応を行う。

委員：基本的には、自治会からの求めに応じて団体を紹介するということか。

指定管理者：そのとおりである。

委員：コンセプト欄に3つのコンセプト以外の「土台」という表記があるが、これはどういうことか。

指定管理者：コンセプト「土台」については、全てに関わる基本的なもの、として捉えている。例えば団体・事業者取材活動であれば、市民活動団体がどんな活動をしているのかを周知等する上で、前提となるものである。

委員：団体・事業者取材活動に「統合」とあるが、新しい事業ということか。それとも、複数の事業をまとめたということか。

指定管理者：団体・事業者取材活動については、全事業へ統合した、という意味である。土台であるから統合するものである。

委員長：団体・事業者取材活動について、UMECOが取材に赴くのか。

指定管理者：そのとおりである。

委員長：かわさき市民活動センターに、市民記者という制度がある。中間支援組織のスタッフではなく、市民が団体を取材するという取組で、参考になるかもしれない。

それでは、議題（1）①については終了する。指定管理者のお二人はこれで退席となる。本日は、大変お忙しいところ、時間をさいいただき感謝する。

■ 議題（1）諮問事項②運営評価について

委員長：それでは、議題（1）②運営評価について、事務局からご説明をお願いしたい。
（事務局 資料2に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

成果指標がアウトカムになっていないことに違和感がある。最終的には、アンケートによる満足度を調査し、アウトカムとして評価するといったことも見据えて様式をつくっていく必要がある。コンセプト「きっかけ」「行動」「実現」の実現を評価するのに、参加者数だけでは不足であると考え。アンケートを実施する際は、5択では真ん中に回答が集中しやすいので、4択とすれば満足度を把握しやすい。もちろん、全事業についてアンケートをとるのは大変であるので、アンケートでしか成果を測れないものとそうでないものを見極める必要がある。

事務局：アウトカムを把握するのにアンケートを活用するのは有効であるが、全事業でアンケートをとるというのは現実的ではないという思いがあり、現時点では資料2のような案としている。大きな事業では簡単なアンケートによる満足度調査等を行うとともに、フェイスブックで「いいね」の数を指標とするなど、併用すべきと考えている。

委員長：仮に、この資料2の指標を埋めていったとして、どのように評価するかは今後の議論ということではよろしいか。

事務局：現時点では、例えば目標値と実績値を単年度で対比させるだけでなく、複数年度の実績値の推移から評価につなげることもできるのではないかと考えている。また、データを蓄積することで、現在はきっかけの場づくりとしての事業が多いが、最上位の実現の場づくりにシフトしていくためにはどういう事業のバランスが適切か、本委員会から意見をいただけるのではないかと期待している。

委員長：資料2は評価の視点を説明するために簡略化したもので、実際の評価にあたっては別の様式が必要となるだろう。例えば、1事業につき1シート、複数年の実績や目標値が分かるようになっている様式があれば、評価しやすいかもしれない。

事務局：あまり指定管理者に負担とならず、また本委員会の限られた時間の中で評価できるような方法を検討したい。事業によっては1シートとしたり、要点を絞ったりと、幅を持たせて考えていきたい。

委員長：指定管理者との意見交換を密に行いながら、無理のないよう検討する必要がある。

委員：評価とは直接関係ないが、資料1-1のまちづくり交流会、声の万華鏡について、この事業がどのようにまちづくりに関わっているのかが分からない。

事務局：まちづくり交流会は、文学や歴史等、特定のテーマに関わる市民活動団体が集まり、イベントを企画しているもので、今年度は約20団体が参加した。テーマに即して団体同士が交流、協力し、一つの事業を成し遂げている。

委員：わくわく交流会というものもあるが、どのように棲み分けしているのか。

事務局：指定管理者の認識と一致していないかもしれないが、サポートセンターの時代に、分野別に交流することで、団体同士の新たな協働を生み出す事業があった。近年では、全ての分野を網羅することは難しいことから、できる分野から着手することとしている。

まちづくり交流会の声の万華鏡は文学をテーマとして団体が集まった。

また、昨年度はわくわく交流サロンとして、国際交流の分野の団体が集まり交流したが、声の万華鏡のように事業化までは至らず、また今年度は開催していない。

今年度は、わくわく交流会としてプチマーケットを開催しており、こちらは分野別というよりはUMECO祭りのように、団体が交流するとともに、活動を来場者にPRし、さらに活動資金を確保することを目的とした、従来の交流よりも発展した事業であった。

分野ごとに異なる名前を付けている状況と考える。

委員：まちづくりという名称には違和感がある。

事務局：文学を通してまちづくりをしよう、というコンセプトであると聞いている。イベント名は声の万華鏡で、ねらいは文学を通してのまちづくりである。

委員：国際交流もまちづくりにつながると思う。分野ごとにイベント名を分けるのは問題ないと思うが、評価にあたっては「分野別交流会」のような括りで整理した方が分かりやすいのではないか。

委員長：重要な指摘である。いくつかの交流会について、実績は個別に表示し、評価としては包括して「交流会」の視点で実施する方法も考えられる。行政の事務事業評価のように、個別の事業を一つ一つ評価するのではなく、ある程度まとまった単位で評価したほうが良いと考える。

■ 議題（2）市民提案型協働事業について

委員長：それでは、議題（2）市民提案型協働事業について、事務局からご説明をお願いしたい。（事務局 資料3に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

手引きに対する意見というわけではないが、6ページの「◆これまでの市民提案型協働事業」の表を見ると、平成26～28年度に事業が集中しており、その後は停滞している傾向が読み取れる。多くの応募があるように、広報を工夫するなどしていただきたい。

それでは、この手引きで平成31年度実施分の市民提案型協働事業を募集することとする。

■ 議題（3）市民活動応援補助金第1次審査【非公開】

■ その他

委員長：その他について、事務局から願います。

（事務局 今後の会議日程の確認及び調整）

※今後の会議日程及び場所は次のとおりとする。

第6回委員会・・・3月11日（日）終日 市役所 午前9時20分～

第7回委員会・・・5月14日（月）午後 UMECOまたは市役所 午後2時～

第8回委員会・・・6月30日（土）午後 UMECO 午後1時30分～

■ 閉会